

第3 京都指標

京都府では、「明日の京都」に掲げた約400の施策指標の達成が「府民のしあわせの実感」という「明日の京都」の本質的な目標にかなっているか、府政運営の方向性が府民意識とかけ離れたものになっていないかなどについて点検するために、府民の意識や満足感なども取り入れた「京都指標」を設定している。

この京都指標は、「統計データ(44項目)」と「京都府民の意識調査(38項目)」で構成しており、その概況等は次のとおりである。

なお、京都指標は、「心の豊かさ」や「満足度」といった主観的な側面を持つ指標であるため、遠い未来にわたって確定的なものを設定することは困難であることから、社会情勢や府民意識の変化等を考慮しながら、その都度、柔軟に見直すこととしている。

○ 統計データ（2017年9月現在）

対象データの全国順位をもとに、1位を100、47位を0として割り振ったものの平均から算出

(指標数)	2017年度	2016年度	2015年度
全体 (44)	59	56	56

①「明日の京都」体系別			
(指標数)	2017年度	2016年度	2015年度
府民安心の再構築 (27)	47	46	48
地域共生の実現 (6)	59	56	48
京都力の発揮 (11)	88	82	82

②性質別			
(指標数)	2017年度	2016年度	2015年度
こころの豊かさ (3)	82	84	83
人の絆・地域の絆 (7)	61	62	60
社会環境 (34)	56	53	53

○ 府民意識調査（2017年6月実施）

「明日の京都」で目指す社会の状況に、より近い選択肢を選んだ人の割合の平均から算出

(指標数)	2017年度	2016年度	2015年度
全体 (38)	57	58	57

①「明日の京都」体系別			
(指標数)	2017年度	2016年度	2015年度
府民安心の再構築 (17)	59	60	59
地域共生の実現 (10)	55	55	54
京都力の発揮 (8)	54	55	51

②性質別			
(指標数)	2017年度	2016年度	2015年度
こころの豊かさ (10)	62	62	63
人の絆・地域の絆 (9)	35	35	33
社会環境 (16)	66	67	65

京都指標(統計データ)一覧 (2017年9月現在)

	統計データ項目	性質別※	最新値		水準 ◎全国順位5位以上、 ○全国平均以上 △全国平均未満 ×全国下位5位以下	(参考)	
			調査年(年度)			直前値	推移 (↑:改善 ↓:後退)
府民安心の再構築	合計特殊出生率	社会	1.34 人	2016年(速報)	×	1.35	↘
	児童虐待相談対応件数(人口10万人当たり)	絆	80.6 件	2015年度	○	78.5	↘
	いじめの認知件数(児童・生徒1,000人当たり)	社会	92.0 件	2015年度	×	85.4	↘
	不登校児童・生徒数(小・中学校)(1,000人当たり)	社会	12.5 人	2015年度	○	11.8	↘
	暴力行為の発生件数(小・中・高等学校)(児童・生徒1,000人当たり)	社会	7.5 人	2015年度	×	7.9	↗
	刑法犯少年検挙人員(14~19歳少年人口1,000人当たり)	社会	4.5 人	2016年	△	6.3	↗
	大学・短期大学等への進学率	社会	66.2 %	2016年度	◎	66.5	↘
	全国学力・学習状況調査 平均正答率(各科目平均値)	社会	小学校 65.5 % 中学校 62.8 %	2016年度	○	66.2 62.8	↘
	学校の授業以外の勉強時間が1日当たり30分に満たない小学生の割合	社会	14.2 %	2016年度	△	14.4	↗
	学校の授業以外の勉強時間が1日当たり30分に満たない中学生の割合	社会	21.2 %	2016年度	×	20.6	↘
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点(小学生)	社会	男子 53.21 点 女子 54.09 点	2016年度	△	53.19 54.29	↘
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点(中学生)	社会	男子 41.64 点 女子 49.27 点	2016年度	△	41.44 48.70	↗
	高等学校を中退した生徒の割合(中途退学率)	社会	1.2 %	2015年度	○	1.4	↗
	完全失業率	社会	3.1 %	2016年	○	3.3	↗
	有効求人倍率	社会	1.35	2016年度	△	1.2	↗
	障害者雇用率	社会	2.02 %	2016年	○	1.97	↗
	一人当たり医療費	社会	339,173 円	2015年度	△	326,701	↘
	社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の登録者数(人口10万人当たり)	社会	1,542.9 人	2016年度	○	1,436.8	↗
	平均救急搬送時間	社会	32.6 分	2015年	○	32.1	↘
	国民健康保険料収納率	社会	93.80 %	2015年度(速報)	○	93.75	↗
	生活保護人数(人口1,000人当たり)	社会	22.9 人	2016年度	△	23.2	↗
	第1号被保険者(65歳以上)の要介護等認定者割合	社会	19.49 %	2015年度	△	19.31	↘
	希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合	こころ	76.8 %	2016年	○	76.1	↗
	交通事故死傷者数(人口10万人当たり)	社会	373.1 人	2016年	○	434.8	↗
	火災出火件数(人口10万人当たり)	社会	20.3 件	2016年	◎	20.2	↘
	自主防災組織の活動カバー率	絆	89.6 %	2016年	○	89.6	↗
自殺者数(人口10万人当たり)	こころ	15.3 人	2016年	◎	16.2	↗	
地域共生の実現	人権侵犯事件数(人口10万人当たり)	社会	24.8 件	2016年	△	27.1	↗
	認証NPO法人数(人口10万人当たり)	絆	52.8 法人	2016年	◎	51.8	↗
	認定NPO法人数	絆	32 法人	2016年	○	26	↗
	ドメスティック・バイオレンス相談件数(人口10万人当たり)	絆	216.0 件	2015年度	×	198.2	↘
	年平均所定外労働時間(事業所規模5人以上)	社会	10.4 時間	2015年	○	10.6	↗
住民基本台帳人口移動報告転入超過数	絆	-750 人	2016年	△	-279	↘	
京都市力の発揮	大学・短期大学の学生数(人口10万人当たり)	社会	6,408.9 人	2016年度	◎	6,358.4	↗
	留学生数(人口10万人当たり)	社会	404.3 人	2016年度	◎	356.3	↗
	府民総生産当たりエネルギー消費量(※) ※最終エネルギー消費量/実質府民総生産	社会	21.0 ^{GJ} /百万円	2014年度	◎	22.7	↗
	世界遺産登録件数	こころ	16 件	2017年	◎	16	↗
	国民体育大会(本大会)の成績	絆	12 位	2016年	○	10	↘
	特許出願件数(人口10万人当たり)	社会	354.2 件	2016年	◎	330.0	↗
	外国人延べ宿泊者数(人口1,000人当たり)	社会	1,593.1 人	2016年	◎	1,567.7	↗
	農業産出額維持率	社会	8.45 %	2015年	◎	-4.74	↗
	道路改良率	社会	57.7 %	2015年度	△	57.3	↗
	出国率(※) ※出国者数/総人口	社会	14.9 %	2016年	○	14.0	↗
国際会議の参加者数(人口10万人当たり)	社会	6,280.8 人	2015年	◎	5,026.0	↗	
全 44 項 目			◎12項目 ○16項目 △11項目 ×5項目		↑29項目(66%)		

※ 性質別は、「こころの豊かさ」=「こころ」、「人の絆・地域の絆」=「絆」、「社会環境」=「社会」で示している。

京都指標「府民意識調査(2017年6月実施)」の結果一覧

	質問項目	性別別※	割合		推移		(参考) 2015年度 (割合)	
			○70%以上 ×30%以下	(○増、×減、 ―横ばい)	2016年度 (割合)			
府民安心の再構築	子育てに喜びややりがいを感じている親の割合	こころ	94	○	―	94	94	
	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	絆	82	○	―	82	81	
	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思ふ人の割合	社会	76	○	×	82	78	
	子どもが、将来に夢を持っていると思ふ親の割合	こころ	79	○	×	80	82	
	子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参画している人の割合	絆	33		○	32	31	
	キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合	こころ	43		×	44	45	
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	こころ	75	○	―	75	75	
	希望する「働き方」(正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など)で働くことができる人の割合	社会	79	○	×	82	78	
	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合	こころ	69		×	71	71	
	病气やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	社会	63		○	62	61	
	住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段(電車、バス等)が十分に整っていると思ふ人の割合	社会	72	○	×	73	72	
	障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合	絆	18	×	○	17	17	
	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	こころ	59		×	60	61	
	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	こころ	49		○	46	50	
	住んでいる地域は、高齢(者)になっても暮らしやすい体制(医療、福祉のほか社会生活全般)が十分に整っていると思ふ人の割合	社会	56		×	57	54	
	地域共生の実現	地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	絆	27	×	×	29	25
地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合		こころ	32		○	30	32	
日々の生活の中で、身体の状態、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合		社会	86	○	○	85	85	
この1年の間にインターネット(フェイスブックやツイッターなど)によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合		社会	99	○	―	99	98	
地域のさまざまな課題に対応する団体(自治会、NPOなど)の活動に参画している人の割合		絆	30	×	―	30	30	
府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合		絆	11	×	―	11	11	
困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合		絆	50		○	49	45	
住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思ふ人の割合		社会	42		×	43	44	
地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合		絆	47		○	44	42	
今の社会(家庭・職場・地域社会などのさまざまな場)は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合		社会	59		―	59	57	
住んでいる地域(市町村)について、個性や魅力を感じている人の割合		社会	54		―	54	54	
住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤(学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関)が十分に整っていると思ふ人の割合		社会	72	○	×	74	73	
京都力の発揮		仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思ふ人の割合	こころ	51		×	53	51
		住んでいる地域(市町村)が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思ふ人の割合	社会	69		×	75	70
		節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合	こころ	66		○	65	69
		住んでいる地域で、地域の文化・芸術活動が活発に行われていると思ふ人の割合	社会	45		×	49	45
	京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思ふ人の割合	社会	81	○	×	82	82	
	明治以来初めての省庁移転として、文化庁の京都への早期移転を実現することが東京一極集中の是正や日本の文化振興の一助になると思ふ人の割合	社会	69		○	67	27	
	西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合	社会	30	×	○	28	27	
	外国人の友人や留学生との交流がある人の割合	絆	17	×	―	17	15	
将来かえたい夢や実現したい目標がある人の割合		59		×	60	62		
これからも京都府に住み続けたいと思ふ人の割合		91	○	×	92	91		
住んでいる地域の環境が、以前に比べてよくなってきていると思ふ人の割合		38		○	37	39		
全 38 項目			○12項目(32%) ×6項目(16%)		○12項目(32%) ×17項目(45%)			

※ 性別別は、「こころの豊かさ」＝「こころ」、「人の絆・地域の絆」＝「絆」、「社会環境」＝「社会」で示している。

(なお、府民意識調査では上記の質問項目のほか、「住んでいる地域の人口が、今と比べてどうなったほうがよいと思っているか」「だれもがしあわせを実感できる社会づくりをめざす京都府の府政運営の指針である『明日の京都』を知っているか」についても調査しているが、府域全体に共通する「望ましい状況」を一概に設定することができないため、京都指標には含んでいない。)

定住意向等と各質問項目との相関分析の一覧

資料3

○相関性の有無については、ガンマ(γ)値を用いた。
 なお、相関係数は、「なんらかの関係の有無と強弱」を示すものであり、-1から+1までの値をとる。本調査では、次の基準で相関の有無を示す。
 -1.0 < γ < -0.3 : (負の相関)がある -0.3 < γ < +0.3 : 相関はほとんどない +0.3 < γ < +1.0 : (正の相関)がある

○相関性の有無は、次の3つの質問項目における肯定的な回答と表中の36の質問項目における肯定的な回答の相関度による。
 問37 将来かなえたい夢や実現したい目標があるか
 問38 これからも京都市に住み続けたいと思うか
 問39 住んでいる地域の環境は、以前に比べてよくなってきていると思うか

※ 相関性のあるものに○印を付し、相関が強い項目を上位として数字を付した。

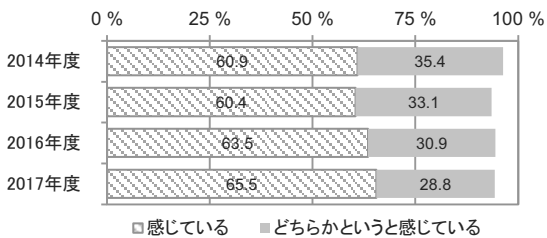
	質問項目	問37		問38		問39	
		γ値	相関性※	γ値	相関性※	γ値	相関性※
府民安心の再構築	子育てに喜びややりがいを感じている親の割合	0.458	○2	0.283		0.135	
	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	0.415	○5	0.215		0.095	
	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思ふ人の割合	0.033		0.478	○1	0.316	○4
	子どもが、将来に夢を持っていると思ふ親の割合	0.360	○8	0.282		0.102	
	子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参画している人の割合	0.207		0.131		0.103	
	キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合	0.425	○4	0.092		0.054	
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	0.428	○3	0.323	○7	0.181	
	希望する「働き方」(正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など)で働くことができていない人の割合	0.278		0.194		0.174	
	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合	0.272		0.231		0.060	
	病气やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	0.144		0.256		0.087	
	住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段(電車、バス等)が十分に整っていると思ふ人の割合	0.079		0.218		0.181	
	障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合	0.235		0.116		-0.006	
	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	0.512	○1	0.226		0.114	
	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	0.076		0.131		0.012	
	住んでいる地域は、高齢(者)になっても暮らしやすい体制(医療、福祉のほか社会生活全般)が十分に整っていると思ふ人の割合	0.066		0.387	○4	0.328	○1
	地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	0.145		0.156		0.015	
地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合	0.187		0.165		0.086		
地域共生の実現	日々の生活の中で、身体の状況、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合	-0.084		0.191		0.022	
	この1年の間にインターネット(フェイスブックやツイッターなど)によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合	0.078		-0.431	○2	-0.046	
	地域のさまざまな課題に対応する団体(自治会、NPOなど)の活動に参画している人の割合	0.188		0.144		0.073	
	府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合	0.186		0.187		0.103	
	困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合	0.128		0.283		0.156	
	住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思ふ人の割合	0.204		0.276		0.324	○2
	地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合	0.209		0.228		0.033	
	今の社会(家庭・職場・地域社会などのさまざまな場)は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合	-0.077		0.081		-0.111	
	住んでいる地域(市町村)について、個性や魅力を感じている人の割合	0.269		0.382	○5	0.321	○3
京都力の発揮	住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤(学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関)が十分に整っていると思ふ人の割合	0.093		0.302	○8	0.292	
	仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思ふ人の割合	0.392	○7	0.185		0.189	
	住んでいる地域(市町村)が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思ふ人の割合	0.184		0.400	○3	0.271	
	節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合	0.198		0.183		0.051	
	住んでいる地域で、地域の文化・芸術活動が活発に行われていると思ふ人の割合	0.175		0.285		0.229	
	京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思ふ人の割合	0.139		0.353	○6	0.287	
	明治以来初めての省庁移転として、文化庁の全面的な京都移転が決定したことが、東京一極集中の是正や日本の文化振興の一助になると思ふ人の割合	0.174		0.275		0.216	
	西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合	0.132		0.196		0.057	
外国人の友人や留学生との交流がある人の割合	0.414	○6	-0.097		0.009		
住んでいる地域の人口は、今と比べて増えたほうがよいと思ふ人の割合	0.054		0.218		-0.032		
「誰もがしあわせを実感できる社会」づくりをめざす京都府の府政運営の指針である『明日の京都』を知っている人の割合	0.075		0.219		0.113		

府民意識調査結果

「明日の京都」で目指す社会の状況に、より近い選択肢を選んだ者の割合を記載

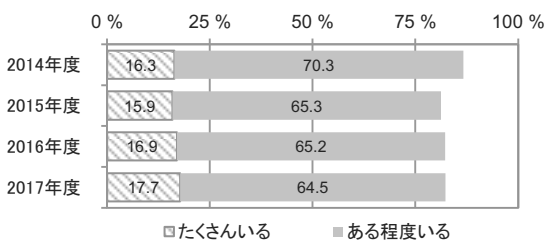
1. 子育てに喜びややりがいを感じている親の割合

(※「子育てをしていない」を除く。)

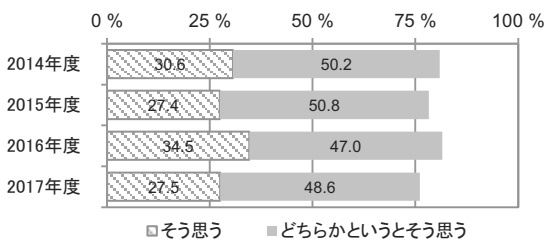


2. 子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合

(※「子育てをしていない」を除く。)

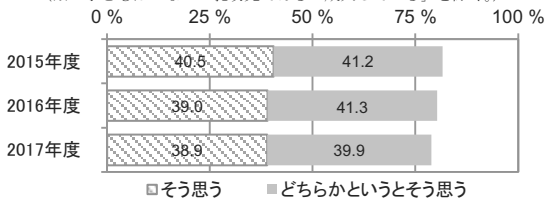


3. 住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合



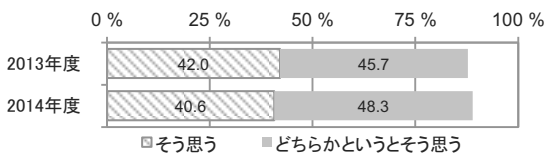
4. 子どもが、将来に夢を持っていると思う親の割合

(※「子どもはいない・乳幼児である・成人している」を除く。)

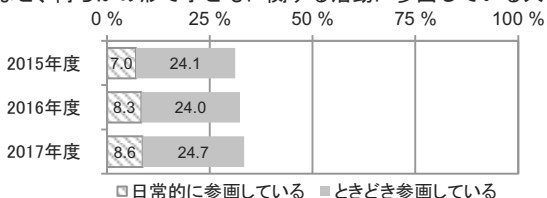


【2014年度まで】

子どもが、学校に行くことやそこで学ぶことに楽しさややりがいを感じていると思う親の割合

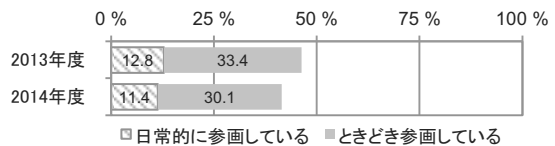


5. 子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参加している人の割合



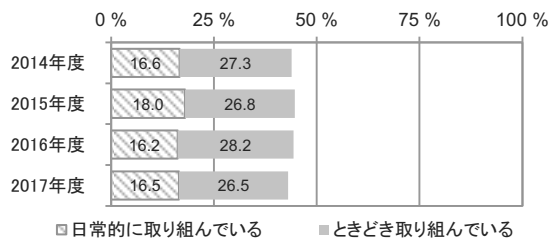
【2014年度まで】

子どもの有無にかかわらず、学校行事や子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもの教育に参加している人の割合



6. キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合

(※2014年度までの質問を一部修正)

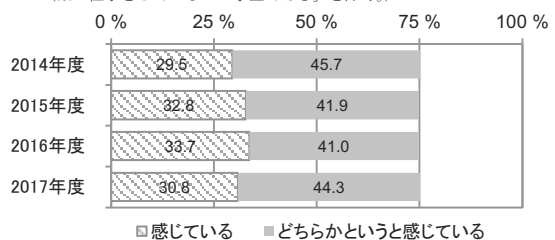


※(2014年度まで)

キャリアアップや趣味・娯楽、地域貢献活動やボランティア活動などを目的とした生涯学習に取り組んでいる人の割合

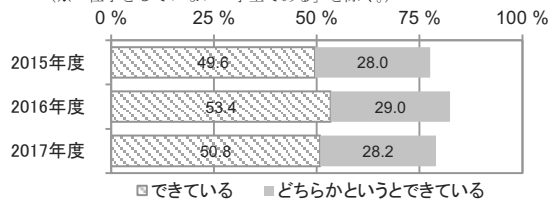
7. 仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合

(※「仕事をしていない・学生である」を除く。)

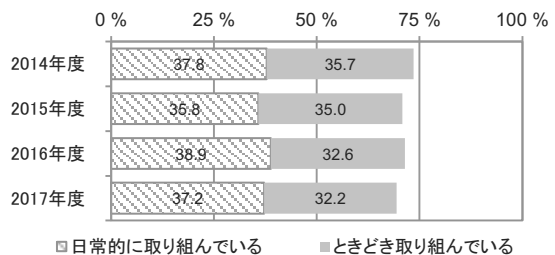


8. 希望する「働き方」(正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など)で働くことができていない人の割合

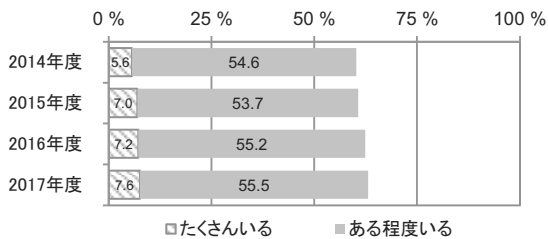
(※「仕事をしていない・学生である」を除く。)



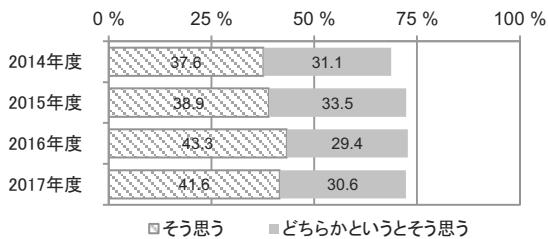
9. 規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合



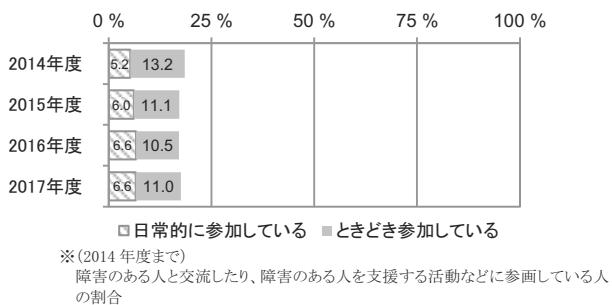
10. 病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合



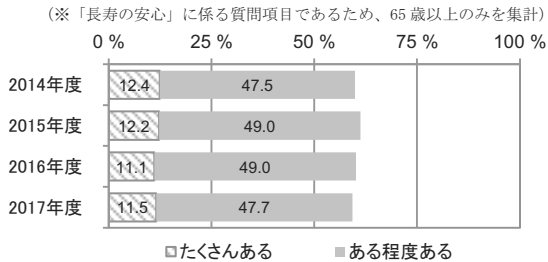
11. 住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段（電車、バス等）が十分に整っていると考える人の割合



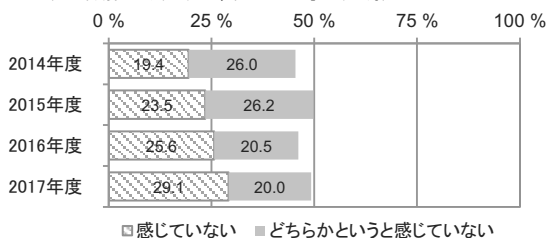
12. 障害のある人となない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合（※2014年度までの質問を一部修正）



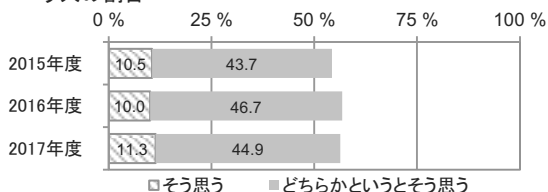
13. 趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合（※「長寿の安心」に係る質問項目であるため、65歳以上のみを集計）



14. 家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合（※「介護を必要とする家族がいない」を除く。）

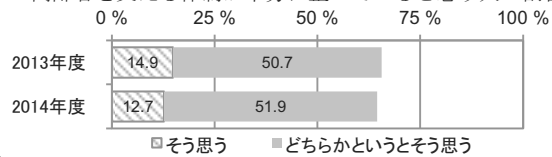


15. 住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思う人の割合

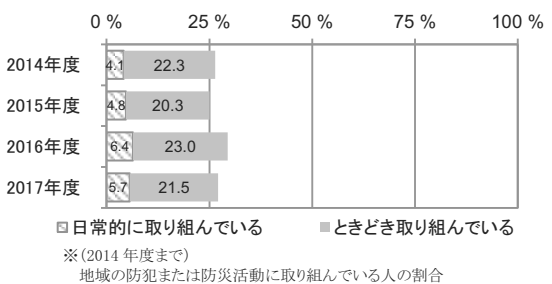


【2014年度まで】

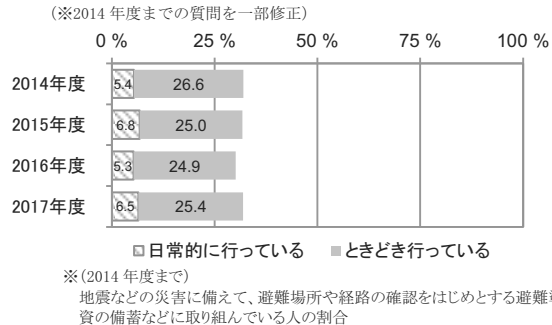
住んでいる地域に、デイサービスやショートステイなどの老人福祉施設、介護ボランティアやNPOなど、地域全体で高齢者を支える体制が十分に整っていると思う人の割合



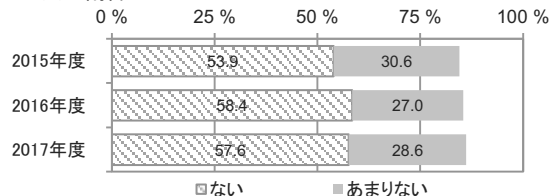
16. 地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合（※2014年度までの質問を一部修正）



17. 地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合（※2014年度までの質問を一部修正）

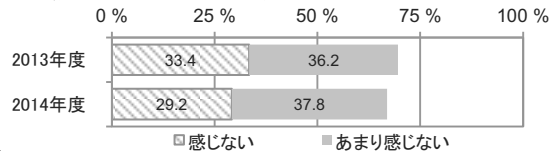


18. 日々の生活の中で、身体や状況、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合

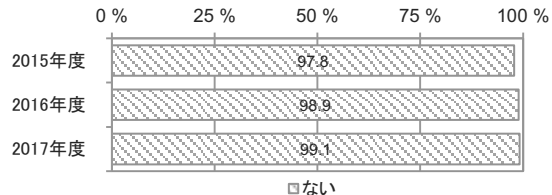


【2014年度まで】

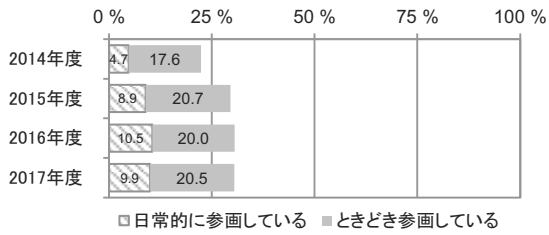
日々の生活の中で、性別や身体や状況などによる差別、虐待や誹謗中傷などの人権侵害があると感じていない人の割合



19. この1年の間にインターネット（フェイスブックやツイッターなど）によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合（※「インターネットを使っていない」を除く。）

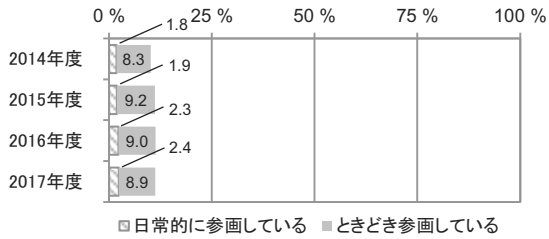


20. 地域のさまざまな課題に対応する団体(自治会、NPOなど)の活動に参加している人の割合 (※2014年度までの質問を一部修正)



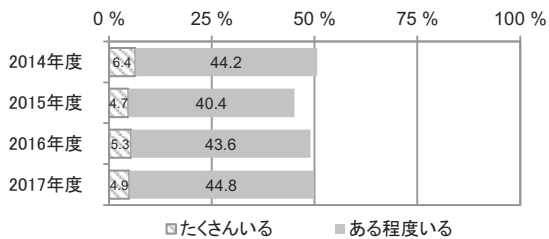
※(2014年度まで)
様々な地域課題に対応する自治会やNPOの活動などに参加している人の割合

21. 府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参加している人の割合 (※2014年度までの質問を一部修正)

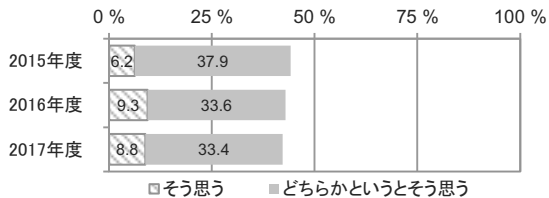


※(2014年度まで)
府や市町村の実施する府民協働の取組に何らかの形で参加している人の割合

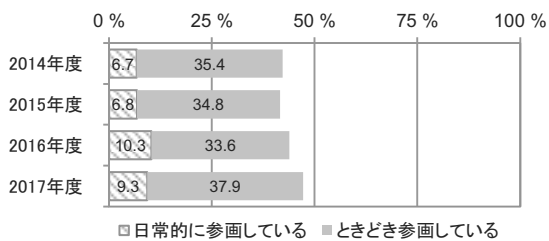
22. 困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合



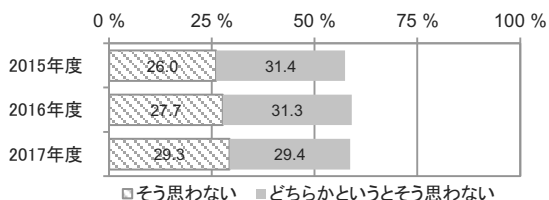
23. 住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思う人の割合



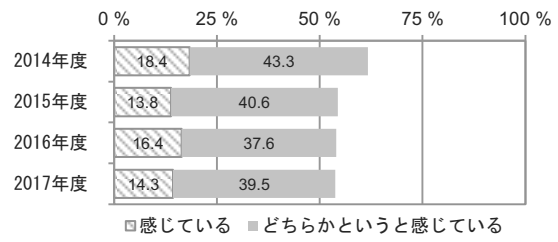
24. 地域の祭りや伝統行事などに参加している人の割合



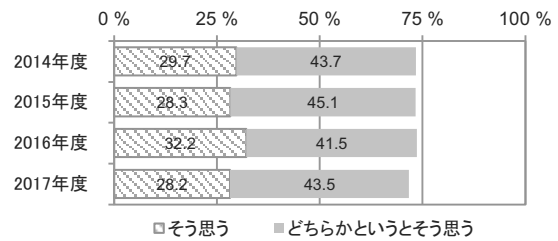
25. 今の社会(家庭・職場・地域社会などのさまざまな場)は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合



26. 住んでいる地域について、個性や魅力を感じている人の割合

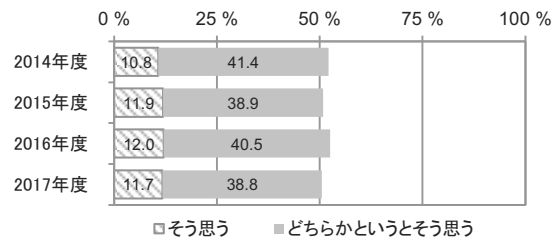


27. 住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤(学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関)が十分に整っていると思う人の割合 (※2014年度までの質問を一部修正)

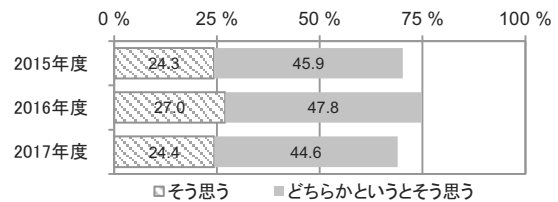


※(2014年度まで)
住んでいる地域に、就業、交通、情報通信、医療、教育、上下水道などの定住に必要な基盤が十分に整っていると思う人の割合

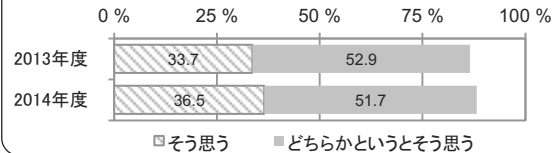
28. 仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思う人の割合



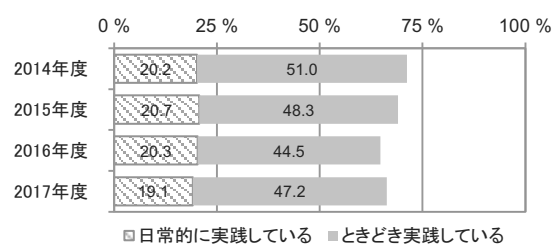
29. 住んでいる地域(市町村)が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合



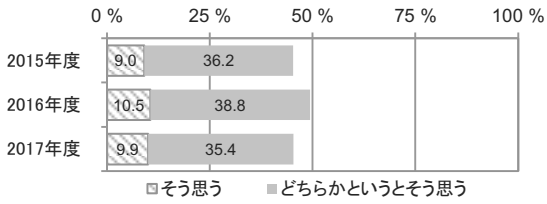
【2014年度まで】
京都府が優れたまち並みや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合



30. 節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合

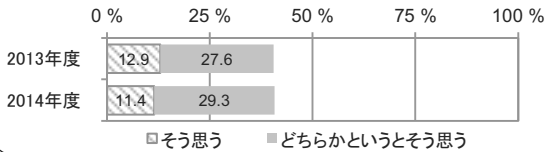


31. 住んでいる地域で、地域の文化・芸術活動が活発に行われていると思う人の割合

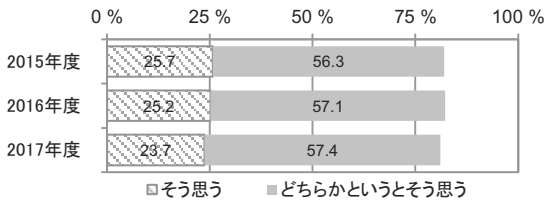


【2014年度まで】

住んでいる地域に、博物館や美術館、劇場や文化ホールなど、美術や音楽、演劇といった芸術文化活動を行うための場、あるいはそれらを鑑賞するための場が十分に整っていると思う人の割合

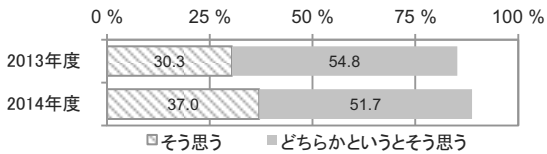


32. 京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合



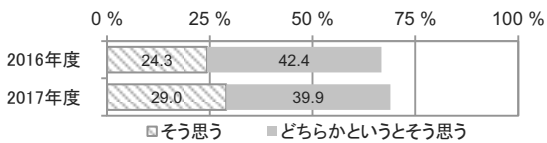
【2014年度まで】

京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、引き継がれていると思う人の割合



33. 明治以来初めての省庁移転として、文化庁の京都への早期移転を実現することが東京一極集中の是正や日本の文化振興の一助になると思う人の割合

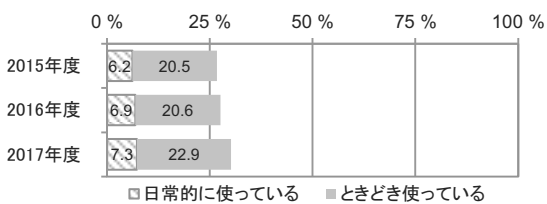
(※2016年度までの質問を一部修正)



※(2016年度まで)

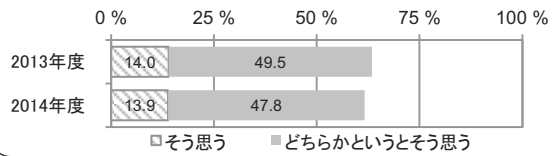
明治以来初めての省庁移転として、文化庁の全面的な京都移転が決定したことが、東京一極集中の是正や日本の文化振興の一助になると思う人の割合

34. 西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合



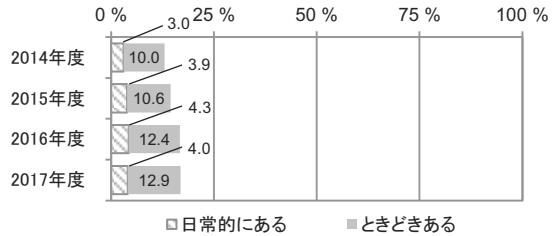
【2014年度まで】

京都府では西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼をはじめとする伝統作業が社会全体で守られ、引き継がれていると思う人の割合



35. 外国人の友人や留学生との交流がある人の割合

(※2014年度までの質問を一部修正)

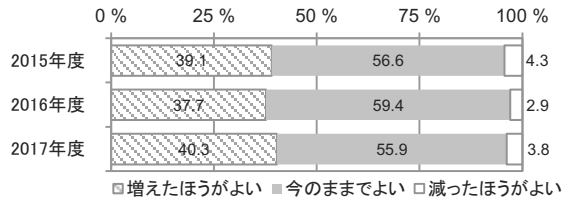


※(2014年度まで)

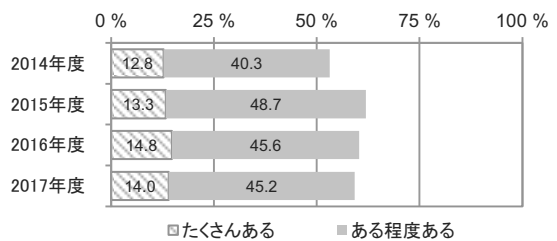
海外に住む友人(海外在住の日本人を含む。)または国内に住む外国人の友人がいる人の割合

36. 住んでいる地域の人口が、今と比べて「増えた方がよい」「今のままでよい」「減った方がよい」と思っている人のそれぞれの割合

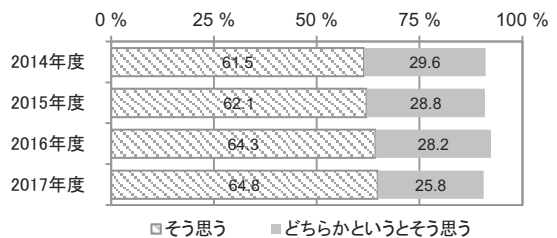
(※質問は「今と比べてどうなる方がよいと思うか」)



37. 将来かなえたい夢や実現したい目標がある人の割合

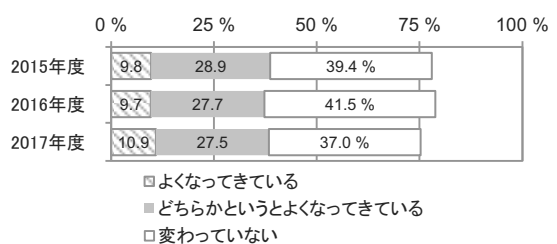


38. これからも京都府に住み続けたいと思う人の割合

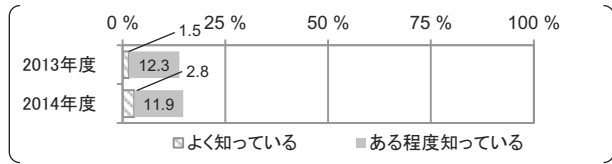
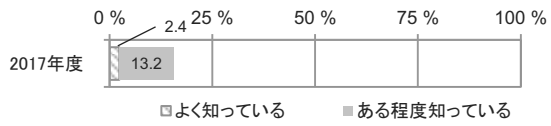


39. 住んでいる地域の環境が、以前に比べてよくなってきていると思う人の割合

(※質問は「以前に比べてどうなっているか」)



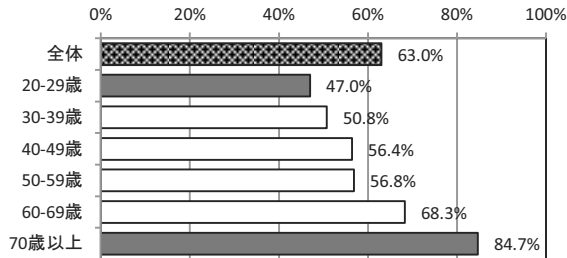
40. 「誰もがしあわせを実感できる社会」づくりをめざす京都府の府政運営の指針である『明日の京都』を知っている人の割合



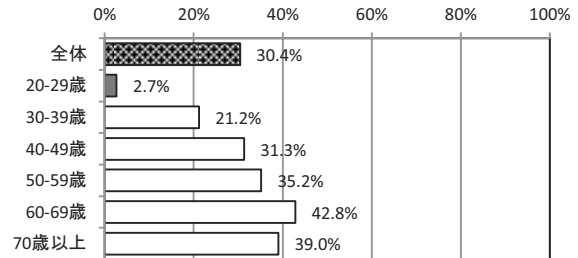
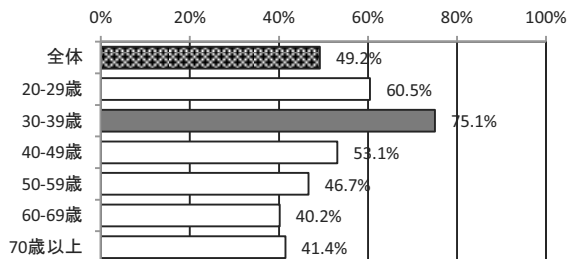
年齢層により集計値に大きな差が認められたもの

年齢層別の集計値のうち、全体集計値と比べて15ポイント以上の差があるものを掲載

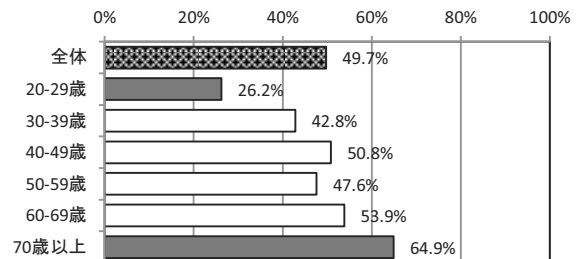
10. 病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合



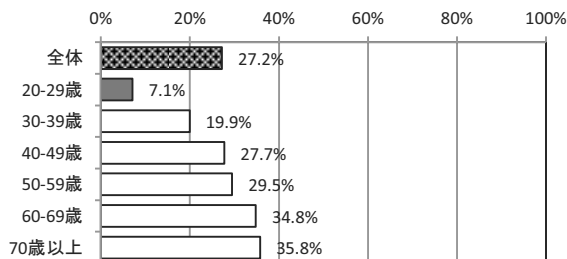
20. 地域のさまざまな課題に対応する団体(自治会、NPOなど)の活動に参画している人の割合

14. 家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合
(※「介護を必要とする家族がない」を除く。)

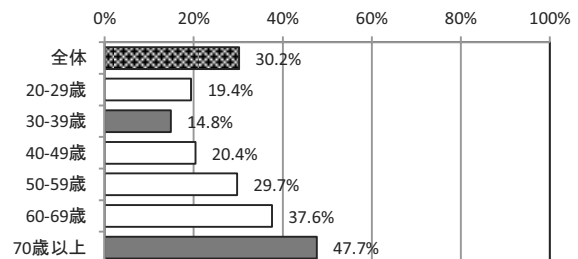
22. 困ったときに気軽に頼れるご近所さんがある人の割合



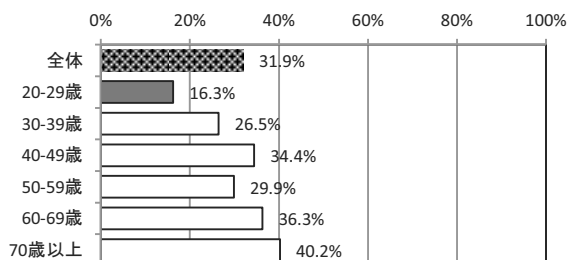
16. 地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合



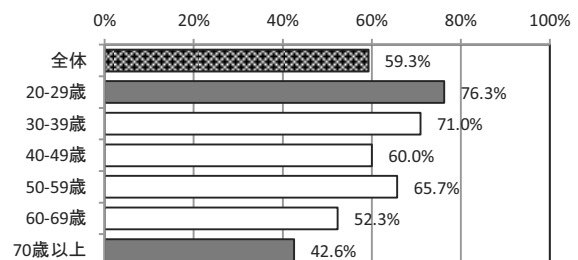
34. 西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合



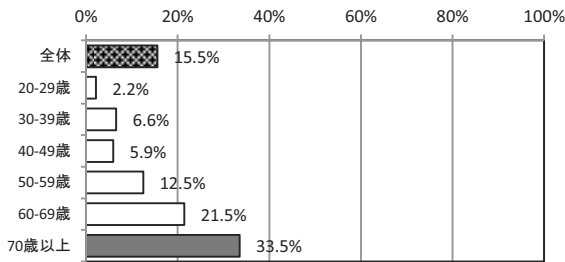
17. 地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合



37. 将来かなえたい夢や実現したい目標がある人の割合

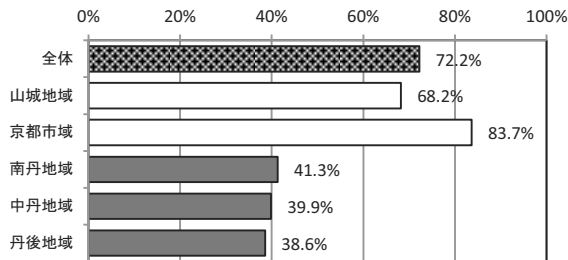


40. だれもがしあわせを実感できる社会づくりをめざす京都府の府政運営の指針である『明日の京都』を知っている人の割合

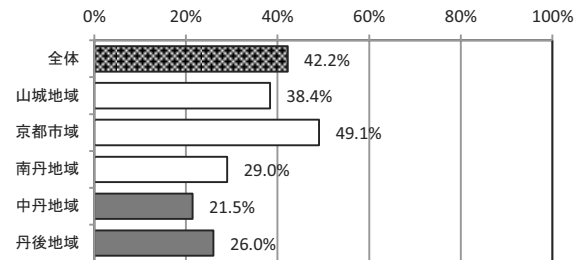


居住する地域により集計値に大きな差が認められたもの
 居住する地域別の集計値のうち、全体集計値と比べて15ポイント以上の差があるものを掲載

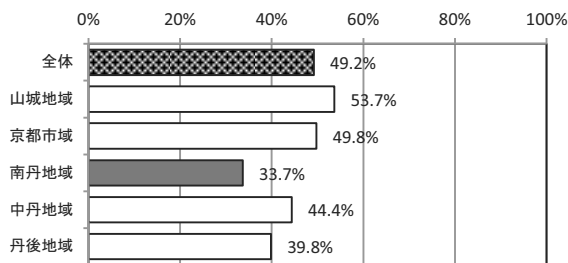
11. 住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段(電車、バス等)が十分に整っていると思う人の割合



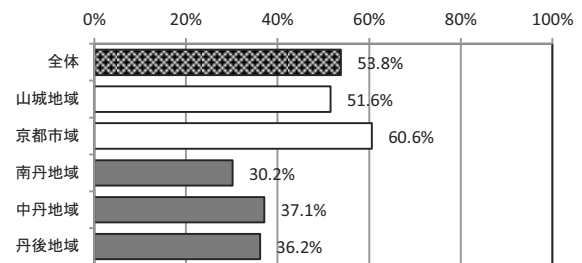
23. 住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思う人の割合



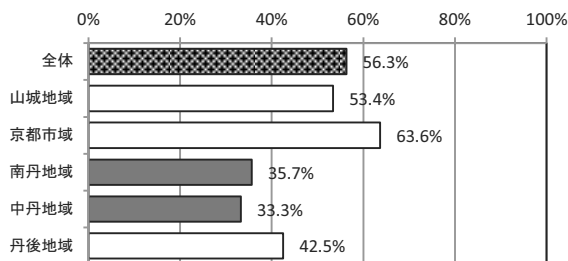
14. 家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合
 (※「介護を必要とする家族がいない」を除く。)



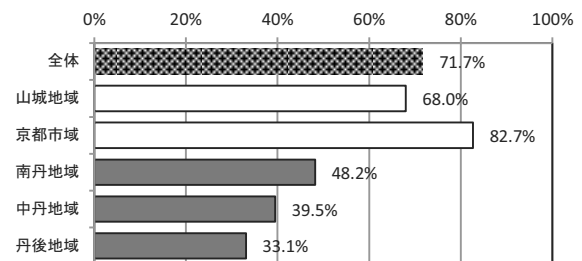
26. 住んでいる地域(市町村)について、個性や魅力を感じている人の割合



15. 住んでいる地域は、高齢(者)になっても暮らしやすい体制(医療、福祉のほか社会生活全般)が十分に整っていると思う人の割合



27. 住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤(学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関)が十分に整っていると思う人の割合



※今回調査においては、性別により集計値に大きな差(15ポイント以上の差)が認められたものはなかった。

「京都府民の意識調査」の概要

1 調査対象及びその抽出の考え方

(1) 調査対象

京都府内在住の満 20 歳以上の府民 4,900 人（無作為抽出による）

(2) 抽出に当たっての考え方

京都府の人口構成（平成 27 年実施の国勢調査による）に比例するように 3,000 人を市町村別、性別、年齢層別に配分。更に、抽出数が少ないことによって調査精度が低下することを防ぐため、亀岡市以北の市町に 1,100 人、向日市、長岡京市、京田辺市、木津川市並びに乙訓郡及び相楽郡の町村に 800 人を人口構成に比例させて追加配分。

2 調査方法

郵送による無記名アンケート形式（謝礼、督促等なし）

3 調査時期

6 月（ただし、2012 年度調査は、2013 年 1 月に実施）

4 回収状況

調査年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
発送数	4,100	4,100 通	4,100 通	4,100 通	4,900 通	4,900 通
回収数	1,800	1,636 通	1,619 通	1,639 通	2,061 通	2,090 通
回収率※	44.4%	40.3%	40.0%	40.6%	42.4%	43.1%
宛先不明による送達不能	48 通	43 通	56 通	62 通	43 通	56 通

※ 回収率は、宛先不明による送達不能数を除いて算出

5 その他

回答の集計に当たっては、国勢調査の人口構成（市町村別、性別、年齢階層別）と比例するように、補正を行っている。